

衛藤 翔平

衛藤建築設計室

【作品名】塩屋の住居Re

設計 衛藤建築設計室  
施工 株式会社 田村建設  
竣工日 2019年11月7日

◎建物概要

建設地 広島県廿日市市 延床面積 90.14㎡  
敷地面積 約460.00㎡ 構造・規模 木造平屋建



before

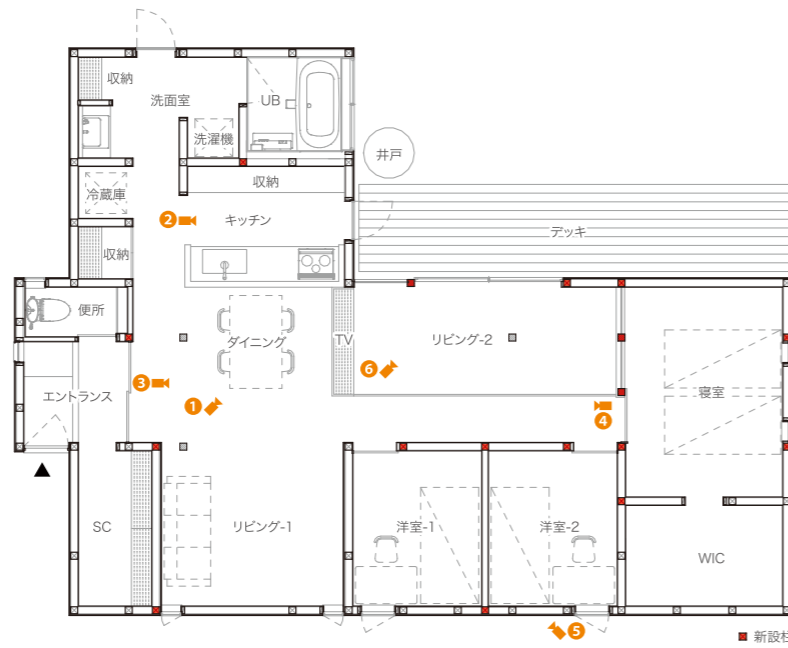


after

◎設備面の特記

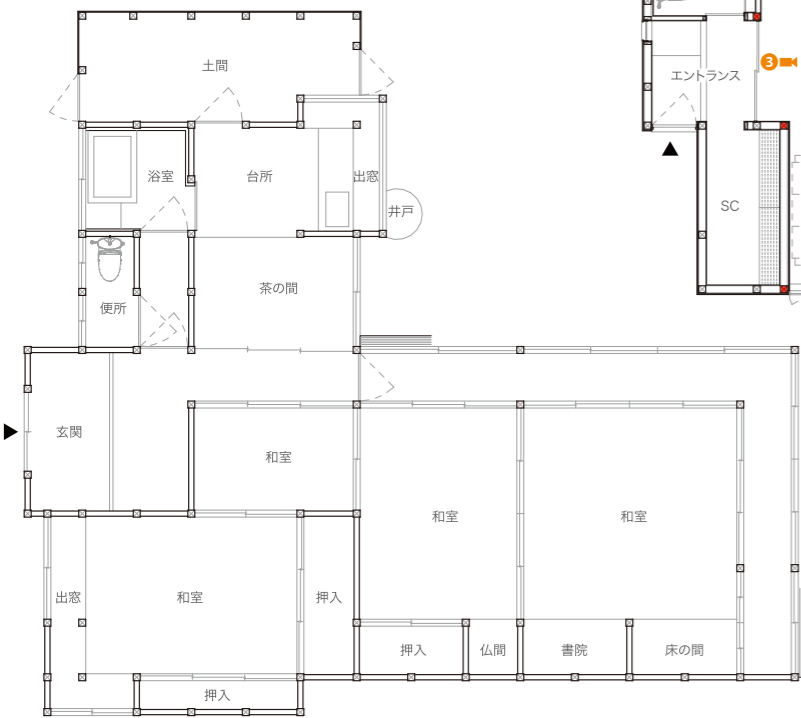
厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

リフォーム後



平面図

リフォーム前



設計コンセプト

今回の計画は、ペットの飼育が可能な賃貸アパートで生活していた家族が、周囲を気にせず自分たちのライフスタイルで生活できる新たな場を求めていたところ偶然この物件を見つけたことからスタートした。敷地は接道の取れない再建築不可物件であったが、クライアントは築70年の趣ある建屋と豊かな庭に一目惚れし、この地での新たな生活を望んだ。構造には70年という年月ほどの劣化は見られなかった。屋根瓦は定期的な葺き替えられ、床下は水はけ、通気性も良い。住環境を整える上で耐震・断熱工事ももちろん、既存環境に悪影響を与えない配慮も必要となった。間取りは既存のL型形状を生かし極力水廻りの位置は変えないこととし、中心にあるキッチンをコックピットとすることで、庭で遊んでも室内で遊んでも常に子どもたちの様子がうかがえる

計画としている。子どもたちも制限されることなく自由に遊ぶことができる。その他諸室はLDKを囲うように配置し最小限の動線での生活が営まれる計画としている。既存プランを尊重し追従することで建物に大きな負荷をかけず、かつ低予算で計画を実現することができた。クライアントのこの地へ住みたいという強い意志は様々な選択肢に寛容性を生み、計画の可能性を拡げてくれることへも繋がった。住み始めて、どこか懐かしさもありホッとするという感想をいただいたが、それだけ設計の段階からこの計画へ深く関わり続け、協同してつくり上げることができた故の感想であり結果となったのではないかと思う。

審査委員講評

広い庭にL型に配された住居。L型外形のみを残した全面改装の家。広縁で庭とつながる改修前の住宅とは全く逆の発想で、L型の外周に諸室を配し、中心のLDKの生活ゾーンが庭に開放されています。家族の親密な生活空間をつくりながら、庭に連続した生活が達成されています。ビフォーとアフターの逆転の空間構成が成功しています。



1



2

①リビングから見たダイニング。既存プランを生かした計画だが、コックピットとなったキッチンからは子どもたちの様子が見られる。  
②キッチンからは外の庭を望むこともでき、風通しも配慮している。



3



4



5

③ エントランスからみる室内全景。断熱性能を高めるために小屋組みは隠したが、結果として快適な室内空間となった。  
④ ペットとの快適な共生を目指し、床材にはペットの関節症対策として屋外でも使用可能な防滑シート材とした。写真左は多孔質セラミックスタイルで防臭効果を期待。  
⑤ 造作通気口。床下の通気を確保するために多くの通気ルートを確認し、空気の循環を図った。  
⑥ 状態のよかった大引などはそのまま使用。リビング-2は基準フローリングより一段低く計画し、外部とのつながりを確保。



6